

# 日本史研究推進委員会

## 共同研究 「神奈川における交易・交流」 モノを活用した日本史教材」 経過報告

川崎高校 白川 重敏

日本史研究推進委員会では、これまで一つの共同研究テーマを三年間一サイクルとして研究活動を続け、研究発表を行ってきた。その基本コンセプトは、日々の日本史授業の中で、県内の各地域にある史料を教材化し、授業に活用し、歴史授業への興味・関心を高め、さらに地域への歴史認識を深めることを研究目的にしている。新課程導入により、地域史・地域史料の活用が組み込まれるようになり、日本史研究推進委員会発足以来続けてきた活動がさらに生かされるようになった。

さて今年度は新たな共同テーマとして「神奈川における交易・交流―モノを活用した日本史教材―」を設定し、「モノ」と地域の交流・交易関係を探っていくと研究を始めた。活動は毎月一回、八月と二月を除いて、委員の勤務校や県内施設を使って月例会を開き、各委員が研究テーマに添ったレポートを持ち寄り、その成果を秋と春の研究発表会で発表してきた。また恒例となった世界史研究推進委員会と合同研究会も実施し、さらに県内施設を利用した例会にも世界史研究推進委員会に呼びかけ、日世合同で活発な討議がなされた。八月には恒例の夏季巡検も実施した。一五年度の活動は以下の通りである。

### 【月例会】

一五年度は次の会場で月例会を実施した。四月（七里ガ浜）・五月（港南台）・六月（川崎市市民ミュージアム・世界史参加）・七月（川崎 日本史・世界史合同推進委員会）・九月（県立歴史博物館・世界史研究推進委参加）・一〇月（茅ヶ崎）・十一月（県立歴史博物館）・十二月（上鶴間）・一月（相武台）・三月（七里ガ浜）

### 【研究発表】

○秋季研究大会（一〇月二二日）かながわ県民センター  
「黒船情報 北上す―幕末のマスコミ事情―」白川 重敏（川崎高校）  
「身近になった文化財―重要伝統的建造物群保存地区を中心に―」木村 芳幸（柏陽高校）

○春季研究発表会（三月九日）かながわ県民センター

「江戸時代の製糖と池上幸豊」 鍵和田武彦（相武台高校）  
「戦死者はどのように慰霊・供養されたか―三浦郡葉山町における戦没者墓標等の調査から―」 坂井 久能（神奈川総合高校）

### 【夏季巡検】

恒例となった夏季巡検は八月二六日に実施した。今年度は「新選組と自由民権運動の里を巡る」と称して日野・八王子・町田方面を実施した。コースは石田寺（歳三の墓）・土方歳三資料館・高幡不動・絹の道資料館・絹の道・小島資料館（車窓見学）・自由民権資料館を回ったが、土方歳三資料館では予約していたにもかかわらず、折からの新選組ブームから京都博物館が収蔵品を搬出するというハプニングに見舞われた。次年度も引き続き巡検を企画する予定である。

最後になったが、月例会の会場をご提供いただいた各高等学校・川崎市市民ミュージアム・歴史博物館に感謝申し上げます。